

2016年
6月号

カトリック笹丘教会

教会 ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標…「いつくしみ深く、御父のように」
小教区今年度のテーマ…「届けよう、神のいつくしみを共に」

関係性と生きる力



主任司祭 遠山満

私達人間は、関係性の中で生きています。かつての日本では、家の中に対話する相手が複数いて、その中で子供は育てられてきました。私が幼い頃、父は単身赴任、母は行商をしておりましたので、午前中、祖母と過ごしておりました。昼過ぎに母、その後、兄、姉の順で帰宅し、夕方くらいになると家の中が賑やかになっていました。父が休みで帰省すると、家は益々賑わっていました。現代は核家族化が進み、多くの両親が共働きの所為か、子供たちは小さい頃から、保育園で延長保育を過ごしたりします。もう少し大きくなると、塾や学童保育に通ったり、部活動に専念したりと、多忙な毎日を送っているように思えます。そのような状況下、子供たち、あるいは私達大人たちは、空き時間をどのように使っているのでしょうか。子供も大人も、テレビやパソコン、携帯やスマホ、ゲームなどに没頭していることはないでしょうか。最近、このような機械による依存症が問題になっています。依存症は、人が関係性の中で生きることを困難にするからです。

ところで、私達は誰との関係性を最も重要視しているのでしょうか。目に見える関係性で重視しているのは、友人や家族、仕事仲間などだと思います。しかし、私達にとって、目には見えなくとも、大切な関係性があります。それは、神様との関係性です。何故なら、私達はこの世の命を終えた後、神様のもとでの永遠のホームステイに出かけるからです。ホームステイ先の家風を知ることもなく、また相手方と連絡を取ることもなく、この世での生活を送ってもよいのかとすることについて考えなければなりません。

以前、福岡教区で取られたアンケートの中の、「共に霊的生活を送るためにどのような工夫ができるでしょうか」と言う問いかけに対して、次のような回答をされた方がありました。「家族皆が忙しいので、日曜日は家族揃ってミサに参加し、一緒に昼食を取りたい」。日曜日に、神様を中心に置くことによって、家族のメンバー一人一人が自己中心性から解放されていきます。それが私たちにとっての「生きる力」になるに違いありません。



開催日時：2016年6月5日（日）11：40～13：00

開催場所：信徒会館

司会：川原

書記：牧山

始めの祈り—熊本地震被災者のための祈り⑨

1. 2016年度の年間テーマ

(1) 教区のテーマ 「いつくしみ深く、御父のように」

(2) 小教区のテーマについて

様々な意見が出されましたが、役員会からの案「神のいつくしみを届けよう」をベースに検討された結果、「届けよう、神のいつくしみを共に」に決まりました。

2. 一人一役について

(1) 皆さんからの申告状況について

今日現在で、女性45名、男性18名の方から申告がありました。希望が集中している所、少ない所、ばらつきがあります。

(2) 今後の進め方について

呼びかけを継続して、今年度一杯かけて検討していきたい。将来的にはチームで集まって話し合うようにしていきたい。

3. その他

(1) 「聖ファウスティナ」勉強会

6/12（日）8時のミサ後

(2) 教会ニュースについて

印刷及び写真の掲載について、小教区内で配布する分は鮮明に印刷できた方が良いでしょう。ホームページに載せる時は、不特定多数の人が見るので、個人が特定されないよう不鮮明の方が良いでしょう。

(3) 活動支援金について

各グループで必要であれば申請してください。

(4) おやじの会について（四教会合同）

6/11（土）19時から 笹丘担当 信徒会館横の庭でバーベキューを行う予定。

(5) 教会建設費借入金の返済について提案

熊本地震でお金が必要と思うので、福岡教区から借りているお金を、繰り上げ返済することを検討してはどうか。→検討します。

(6) 平日のミサ後にゆるしの秘跡を受けたい時

平日のミサ後にゆるしの秘跡を受けたい時、司祭が聖堂内に居ないとお願いしづらい。

→遠慮せずに司祭を見つけて申し出て下さい

終わりの祈り—熊本地震被災者のための祈り⑦



今年度小教区年間テーマ（目標）決まる！

テーマ 「届けよう、神のいつくしみを共に」

今 私たちは「いつくしみ深く、御父のように」の特別聖年を過ごしています。宮原司教様は福岡教区の年間目標を「いつくしみ深く、御父のように」とされました。この教区目標を受けて役員会、拡大信者会で検討の結果、

「届けよう、神のいつくしみを共に」が小教区の年間テーマに決まりました。

テーマを話し合う中で一番強調したいのは何かを考えました。それは「届ける」という行動でした。では具体的にどう取り組めばいいのでしょうか。

私たちは教皇様の特別聖年の祈りの中で、「教会がこの世において、復活し栄光に満ちておられる主のみ顔となりますように」また「あなたの教会があらたな熱意をもって、貧しい人により知らせをもたらし・・・」と祈っています。

教会、それは私たちひとり一人です。わたしたちの行動が、行動でいつくしみの神様を周りの人々に知らせるのです。それにはまず自分自身が赦された存在であるということから始まるのでしょうか。私たちは日々の生活の中で、相手を赦さなければならないことがしばしばあるのではないのでしょうか。ゆるすこと、それは自分もゆるされていることを気づかせてくれます。ゆるし、ゆるされる喜びを形に、イエス様だったらどうしただろうと考えて行動しましょう、「届けましょう。」こんなことはどうでしょう。

身近な人にやさしい言葉をかける。教会から遠ざかっている人のために祈り、一つでも犠牲を捧げる。一日一回親切な行いをする。苦手な人のために祈る。人を裁かないようにする。困っている人に手を差し伸べる。病気の人を訪問する。災害被災者や世界の難民のために募金する。・・・

身近なところで、自分自身の行動で、神様のいつくしみ、神様の愛を届けましょう。

さて、『あなたは、だれに、何を届けますか？。』

信徒会長 川原義広

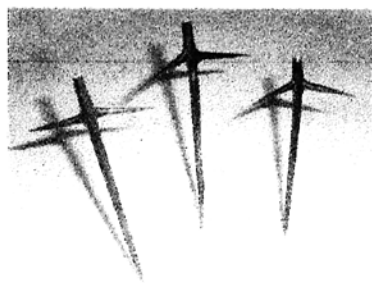
「私のヒストリー」



フランシスコ神学生

笹丘教会の皆様、私は初めてこの教会で司牧をさせていただいてから、もう二ヶ月が経ちました。今回、私のことについて少しをお話ししたいと思えます。

私の全部の名前はホセ・フランシスコ・フェルスカ・ロサスです。確かに、日本人の名前と比べたら、メキシコやラテンアメリカの人の名前の方が長いし、私のように二つ名前を持っている人が多いです。二番目の名字はお母さんからもらいました。私は今年

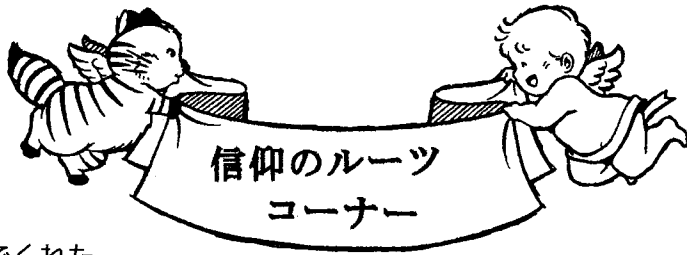


31歳になりました。家族は、ケレタロシティという市に住んでいて、兄弟たちが8人で、甥と姪のみんな合わせると17人です。ケレタロは面白い町と思います。多分一番人気なものは十字架の形の棘。実は、昔ケレタロに来たスペインの宣教師たちが福音の宣教を始めた時に、一人のフランシスコ会の宣教師がその始めの象徴として自分の杖

をある丘に立てると、それが年月が経つとともに一本の木になりました。その木は、花も実も種もつけず、十字架の形の棘だけをつけるので、『十字架の木』と呼ばれています。現在もまだその木は見られて、ラ・サンタ・クルスの教会の中庭にあります。

私の召命に関しての話は、面白いことがあります。それは、映画館で映画を観ていた時に神の声を聴いた、ということです。こういうことを話すと、なんだかよくわからないという人もいます。その映画の名前は「カローラ教皇になった男」（聖ヨハネ・パウロ二世物語）です。その映画では教皇さまの若者のための話に感動しました。特に、何回も『若者、キリストにあなたの人生を与えることを恐れなさい！』というメッセージが魂に聞こえました。その時から司祭の召命について考え、2007年の夏、グアダルペ宣教会の神学院に入りました。それは私の人生で最も大きな決断だと思っています。

2012年、夏の休みの間に、家族と一緒に朝ごはんを食べていた時に、突然電話があり、それは神学院の院長からでした。彼は挨拶も言わないでいきなり「フランシスコさん、あなたが日本に遣わすことは総長が決められていました。そのために準備をしてください」といわれました。それは信じられないほどのびっくりすることで、私は声さえ出すことができず、ただ「はい」とだけ答えました。その時からこの“冒険”が始まりました。



神様が呼んでくれた

自分の信仰をたどっていくと幼いころから本当にカトリックの環境に恵まれていたな、と思う。両親の家系がともにクリスチャンで、生まれて1ヶ月後には幼児洗礼を受け、笹丘幼稚園に通い、小・中・高はカトリックの一貫校に通った。毎朝お祈りをし、週に1回は宗教の授業があり、年に数回はごミサも学校行事としてあって、ごく普通に信者という事を隠すことなく学生生活を送っていた。また、中高生時代に FYCC や中高生会で多くの同じカトリックの同世代の子たちに出会って、ぐっと「教会=楽しい」と思えるようになったことも、自分の信仰をここまで保てた要因の一つだ。ここまでは順調に「カトリック信者」として恵まれていたように思える。

しかし、高校卒業後、普通の大学に入って初めて「カトリックじゃない日常」になったことで、逆に「クリスチャンとは何だろうか」と考えるようになった。大学生時代はほとんど教会に足を運んでおらず、ミサも行っても月に1回程度、行かない月もあったりして、教会から遠ざかっていた。それでも高校までのカトリックの教えや青年会があったおかげで完全に離れる事はなかった。

大学卒業後はなかなか長期間の仕事が決まらず、精神的につらい時期もあった。そんなときに応募したのが市内にあるキリスト教系の学校での仕事だ。ダメ元で応募してみると、なんと見事に採用され、働けるようになった。就職が決まった時に、「もしかすると神様がこちらへおいで、と呼んでくれたんじゃないか」という気がしてならなかった。今でも、あの就職は、神様がちゃんと道を用意してくれていたのではと思っている。それからは再び日曜日に教会に行くようになった。

いまは教会学校のスタッフとして中高生たちと関わっているが、「信仰ってなに」という質問にははっきり答えられず、うまく伝えられないもどかしさがある。「苦しい時には必ず神様が導いてくれるから、素直に神様にお祈りして、話してみて。きっとすべてうまくいくから。」いま、私が経験したことから伝えられる、精一杯の信仰です。

ルーツ、Roots は起源の意、一方、道の意味での Route(ルート) の複数形も日本ではルーツと発音する。ひとりひとりの信仰の形は違うし篤さもちがう。それでも神様のもとを歩んでいるのには違いない。信仰のルートは人それぞれ。それこそ「みんなちがってみんないい」ものなのだと思う。(S.M)





編集後記

・二歳になったばかりの孫が食前の祈りを一緒に唱えるようになった。もちろん言葉はまだカタコトなのだが、十字をきるようになった。こちらが手を合わせず適当に祈っていると容赦なく「じいじ、ばあば」と注意されながら楽しい食事が始まる。

(Y. K)

・主人が amazon 中毒だ。高価なものではないのだが、とにかく毎日のように宅急便屋さんがやってきて「いつもありがとうございます!」。山のように段ボールゴミがたまってゆく。買い物依存症か?何かストレスでも・・・? (F.K)

・5月連休、滑って背中を強打した。余りの痛さに、痛み止めを飲み一晩を過ごし朝、聖書を開いた。と偶然に開いたページに「口をすべらすよりは、道で滑る方がましだ。(集会の書 20・18)」思わず叫んでしまいましたが、忘れられない神様からのメッセージでした。(Y. K)

・広報委員を始めて、3年が経つのだろうか・・・?大の苦手だった分野も力を合わせれば、それなりのものができるのですね。引き受けてから、随分と信仰深くなった気がします。特に親しい間柄でもなかった辛嶋さんからの誘いに不思議な御縁を感じます。感謝。(J. N)